

県南支部だより

CONTENT

- 県南支部長挨拶
- 令和5年度 日本看護協会通常総会参加報告
- 令和5年度 支部研修会
- 令和5年度 懇談会
- 令和5年度 看護の日イベント
- 第116回 県南支部看護研究発表会
- まちの保健室
- 施設紹介
(社会福祉法人 篤心会 特別養護老人ホーム エルピス森宿)
- 令和5年度 支部役員・委員紹介
- 編集後記

公益社団法人 福島県看護協会県南支部

令和6年2月発行

写真/鏡石あやめ祭り

県南支部長挨拶



福岡県看護協会 県南支部長

J A 福島厚生連 白河厚生総合病院 鈴木 文子

今年度より支部長を背任いたしました。日頃より県南支部の事業及び運営にご支援とご協力いただき改めて感謝申し上げます。

また、このたびの熊登半島地震に際して被災された皆様にご支援とご協力いただき改めて感謝申し上げます。

さて、昨年の5月8日より新型コロナウイルス感染症は2類相当から5類に変更となり様々な法的規制が緩和されました。それに伴い、昨年度までは対面での開催が困難となっていた支部活動でしたが、今年度より感染対策を行いながら再開することができました。管理者懇談会では行政保健師と看護管理者が集い地域包括ケアシステムの推進に向けて顔の見える連携づくりができました。また研修会においてはハイブリットで開催し昨年に引き続き「ACP」あらゆる場面での意思決定支援の実践について学ぶことができました。看護研究発表会においては現地開催で多数の参加者でディスカッションすることができ有意義な時間を共有しました。また、町の保健室では地域の方々と笑顔でふれあうことができ、私たちも元気をいただきました。かんごちゃんも大活躍でした。

今後も感染対策を行いながらの活動は続くと思います。変化に柔軟に対応することは看護の基本であると思います。さらに新しく創造する看護の力を発揮していただければと思います。引き続き支部活動へのご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

令和5年度日本看護協会通常総会参加報告



J A 福島厚生連 白河厚生総合病院

上石美歌子

新型コロナウイルスが5類へ移行した6月、幕張メッセを会場に728名の参加者のもと日本看護協会通常総会が開催されました。令和元年より会長を務めていた福井トシ子会長が任期満了となり、新たに高橋弘枝会長が就任されました。看護協会の取り組みや活動内容が報告されると、会場からも活発な質問や意見が出され、看護師の業務量、看護補助者の確保、外来の体制など、どの地域・施設でも同じ問題を抱えている事が感じられました。また、今回の総会では「看護職の生涯学習ガイドライン」が提示されました。病院で、在宅で、看護職が活躍する場は多く、求められる能力も高くなっています。しかし少子化の時代、人員の確保が難しいのも現状です。資格を持つ者が長く働き続けられるよう、様々な働き方や学び方を示していく必要があります。看護師それぞれが自分のビジョンを明確に持ち、学習していける体制を作り伝達していくことが必要だと感じました。他施設での取り組みを自施設に持ち帰り、出来ることから取り組んでいきたいと思っています。



令和5年度 支部研修会

令和5年10月14日(土)、白河厚生病院会議室において支部研修会が開催されました。

昨年同様ZOOMを利用したハイブリット型の研修会で、44名が参加しました。

今年度も「ACP」を統一テーマとして、白河厚生病院総合診療科 宮下淳先生より、「あらゆる場面における意思決定支援」について、ご講演頂きました。



第1部「いろいろな場面における意思決定支援」では、ACPの定義と実際に関わった意思決定支援事例について、第2部「人生の最終段階の医療・ケア決定プロセス 在宅訪問診療と在宅訪問看取り」では延命治療の中止・差し控えに関する問題について、また現在行っている在宅訪問診療について講義されました。参加者からは、「今後、患者さん・ご家族との関り方について考えるよい機会となった。」「患者さんの思いを中心とし、意思決定支援ができるチーム作りをしていきたい」などの感想が聞かれ、大変有意義な研修会となりました。



令和5年度 懇談会



令和5年9月8日(金)、矢吹町複合施設KOKOTTO (ココット) にて地域包括ケアシステム推進のための看護機能の強化をテーマにした懇談会が開催されました。各病院や施設団体から14名の参加者が集まりました。

はじめに福島県看護協会佐藤博子会長より福島県看護協会の2025年までの事業方針と取り組みについてお話がありました。看護職の育成支援や看護機能の強化、職場環境づくりの推進等の内容が明らかとなりました。その後、県南保健福祉事業所の尾形幸子様を講師としてお迎えし「行政保健師の活動と医療関係との連携」の講演をいただきました。行政における保健師の活動は地域全体が機能するため、ケアシステム構築を目的とし、各関係者をつなげ、総合的にとらえて支援することを特徴としています。福島県はメタボリックシンドローム該当者の割合が全国と比較して高いワースト4位。特定健診の実施率が低いという現状があります。これらを踏まえ、県民全体の健康意識の向上が必要となっています。





看護の日



オリエンテーション



新型コロナウイルス感染症の影響で中止されていた「看護の日」のイベントですが、令和5年6月17日に須賀川市民交流センターtette（テッテ）で4年ぶりに会場で開催することが出来ました。

今年度の看護の日イベントでは県南地区の中学生を中心に参加者を募り、17名の参加がありました。進路相談や県南地区の各病院のナース服の展示などの他「PPE体験」「血圧測定」「手洗いチェック」「AED体験」など体験型のイベントも行い、県南支部委員の説明を聞きながら真剣に取り組む姿が見られました。

今後も、このようなイベントを通して私達の看護の魅力を若い世代にも伝えていきたいと思います。



ナース服展示

AED体験



血圧測定



PPE体験



進路相談



新生児体験



手洗いチェック



第16回 令和5年度県南支部
看護研究発表会

演題 -SUBJECT-



福島県看護協会県南支部看護研究発表会は、12月9日土曜日、白河厚生総合病院内において開催されました。今年度は、3施設より5題の演題発表がありました。感染対策を実施したうえで、57名の参加となりました。

座長は、第Ⅰ群 福島県厚生農業協同組合連合会 塙厚生病院 渡部静香さん、第Ⅱ群 南東北春日リハビリテーション病院 伊東三弥子さんに務めて頂きました。

各施設からは、日々の看護実践で疑問や問題に思う課題を明確にされ取り組んだ研究成果が発表されました。質疑応答では、たくさんの質問や意見が活発に行われ他施設同士の情報共有の場ともなり今後の看護実践に繋がる有意義な時間となりました。

今後、県南支部看護研究発表会がたくさんのの方に興味を持って頂く機会やさらなる県南地域の看護の質の向上に繋がることを期待しております。



第Ⅰ群

座長 福島県厚生農業協同組合連合会 塙厚生病院 渡部 静香

1. 離床センサー開始時のスタッフの不安軽減に向けて

—離床センサー設置を判断するためのフローチャート作成—

公益財団法人会田病院 皆川 一寿

2. 事例を通して考える退院後の生活に不安を抱える患者・家族への退院支援

福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生総合病院 遠藤 和恵

第Ⅱ群

座長 医療法人社団三成会 南東北春日リハビリテーション病院 伊東三弥子

1. コロナ禍で面会制限中に切迫早産で入院となる妊婦のストレス

—病棟スタッフが考えるストレスとの相違について—

公立岩瀬病院 齋藤あかり

2. 長期化する面会制限に対する家族との関わり

—患者の画像を用いたことでの心理的变化について—

公益財団法人会田病院 渡邊 幸一

3. 新型コロナウイルス感染症に対応する看護師の思い

福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生総合病院 高橋 海



まちの保健室

- 令和5年 7月7日 須賀川市 JA夢みなみ はたけんぼ
- 令和5年 8月4日 棚倉町 JA東西しらかわ みりよく満点物語
- 令和5年 10月9日 白河市 しらかわスポーツフェスティバル
- 令和5年 11月3日 白河市 しらかわJAまつり

本年度の県南支部事業・まちの保健室は上記の4ヶ所にて、血圧測定・体脂肪測定・手洗いチェック・健康相談等を行いました。須賀川25名、棚倉23名、白河スポーツフェスティバル69名、JAまつり117名の参加となりました。

新型コロナウイルスは5類へ移行となりましたが、市民の皆様の感染に対する意識はまだまだ強く感じられました。専用のクリームを手洗いするように塗り、水で流した後、特殊ライトをあてて洗い残しを目視できる手洗いチェッカーはとても好評でした。また御夫婦や親子で参加されている姿もあり微笑ましく感じました。

ふくしま健康アプリを活用している方や普段からウォーキング等の運動をしている方、又、食生活に気をつけている方が多くみられました。

日本看護協会には「かんごちゃん」というマスコットがありますが、この度、福島県看護協会にかんごちゃんの着ぐるみができ、しらかわスポーツフェスティバルで県内初のお目見えとなりました。真っ白でフワフワなかんごちゃんはとても可愛くて、お子様達にあっという間に気に入られ、一緒に写真を撮る列が出来ていました。

今後も地域の方々のニーズに合わせた健康推進のアドバイスが提供できるよう、事業活動に取り組んでいきたいと思ます。



しらかわスポーツフェスティバル



はたけんぼ



しらかわJAまつり



しらかわJAまつり

しらかわJAまつり



みりよく満点物語



みりよく満点物語



施設紹介

社会福祉法人 篤心会 特別養護老人ホーム エルピス森宿



当施設は、社会福祉法人篤心会の介護保険事業所16番目として令和5年8月に開所した介護老人福祉施設です。須賀川市北部の閑静な住宅街に位置し、鉄筋コンクリート2階建ての建物で定員は100名、居室は全室個室のユニット型です。生活環境やプライバシーを確保し、施設理念の「安らげる環境の中で、生きがいの感じられる家庭的な生活」を目指してサービス提供に取り組んでいます。

施設の特徴としては、1つ目に看護師24時間常駐の体制を整え、入居者の健康管理や医療サポート、病院連携の充実を図っています。特に人工透析者の病院対応や食事管理など安心してお過ごし頂けるケアに努めています。2つ目は、デジタル化を職員全員で取り組み、サービスの向上を目指しています。介護現場での見守りや記録の自動化は勿論、医療機関と情報を共有し、迅速な状況把握と正確な指示をもらうことが出来ています。また事務作業をICT活用により見直し、勤怠とシフトを連携管理させて業務の効率を図っています。私たちは、職員一丸となって「入居者の人権と家族の想いを大切に」をモットーに持続可能な介護の実現に向け歩み始めています。

〈役員一同〉

〈支部長〉

鈴木 文子

〈役員〉

会田 好子

根本由利子

糸井ひかる

兼田 涼子

大星 知佳

菊池 由紀

〈教育委員〉

小磯 智子

富岡 崇

佐久間和美

円谷由里子

福田加寿子

〈地域看護活動委員〉

久下 沙織

森合有希子

青木 和子

郷 順子

橋本恵美子

(順不同)

編集後記

今回で13回目の支部だより発行となりました。令和5年度は新型コロナウイルスが5類となり、昨年まで制限・中止されていた対面でのイベントも再開することができました。今後も感染症対策を行いながらの支部活動になりますが、広報誌を通して皆様に県南支部活動や情報の発信をしていきたいと思えます。

